

# 「森林ボランティア」への取組みについて

上松署・南小川森林官 ついで ○上野 文紀 さのみり  
業務課森林活用係 いしづか 石塚富貴子 きこ

## 要 旨

近年、国民参加による森林（もり）づくりの気運が高まりつつあるが、その活動の場が未整備であった。このような状況の中、林野庁と地球緑化センターが連携を取り「山と緑の協力隊」（愛称：森林ボランティア）を企画し、当署では赤沢自然休養林をフィールドとして提供し、修景除伐を実施した。森林ボランティアの受入れ後、参加者全員からアンケート調査を行い、今後の受入れに向けて具体的な検討を行った。

## はじめに

森林に対する国民の関心は年々高まり、国民参加による森林及び緑資源の維持造成の気運が定着しつつあるが、その受け皿となるべき団体や活動の受け入れ先が未整備のため、国民による自主的な活動の輪がなかなか広がらない傾向にある。

このような状況の中、平成8年度から民間団体「地球緑化センター」が実施する『山と緑の協力隊』（愛称：森林ボランティア）の活動に対し、国有林を活動の場として提供した。長野営林局では上松営林署・白田営林署・王滝営林署・長野営林署の4営林署で受入れを行い、当署では赤沢自然休養林をフィールドとして提供し2回の受入れを行った。

## 1 森林ボランティアの事業推進体制

森林ボランティアは、フィールドの提供者である「林野庁」と、「山と緑の協力隊」の事務局である「地球緑化センター」がニーズの調整を図りながら、森林・林業に対する国民の理解と協力を高めるために、国民参加による森林整備・体験林業等の様々な活動を行っている。

## 森林ボランティアの推進図

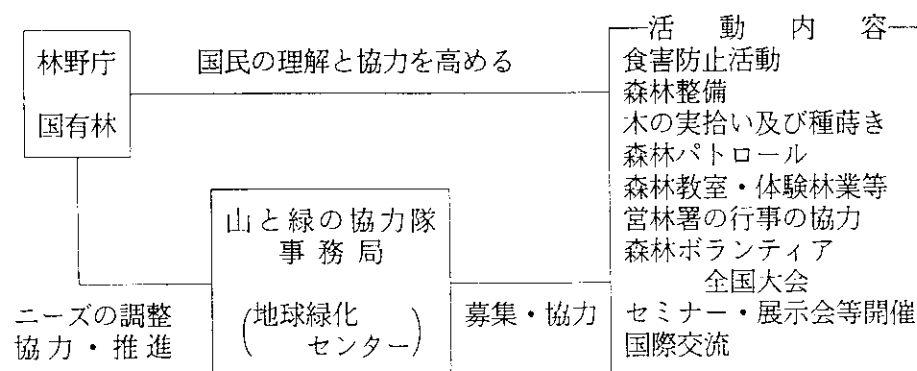


図-1 森林ボランティア推進図

## 2 森林ボランティアの活動内容

### (1) 赤沢自然休養林における活動（上松営林署管内）

日 時	第1回目	平成8年5月25日～26日
	第2回目	平成8年8月24日～25日
参加人数	第1回目	32人（男性22人・女性10人）
	第2回目	17人（男性7人・女性10人）
活動内容	森林鉄道沿線の景観整備 ヒバの修景除伐（木曾ヒノキ天然更新促進のため）	



写真-1 山と緑の協力隊



写真-2 作業風景

修景除伐作業は、2人1組で鋸により行い、休養林内であるため景観の保持を図る観点から除伐木の枝条整理も併せて実施した。

現在の赤沢自然休養林は、上層木の成長と共に、林内照度が暗くても成育するヒバが多くなっている。今回の修景除伐作業は、景観の整備を図ることはもとより、次代へ引き継ぐ木曾ヒ

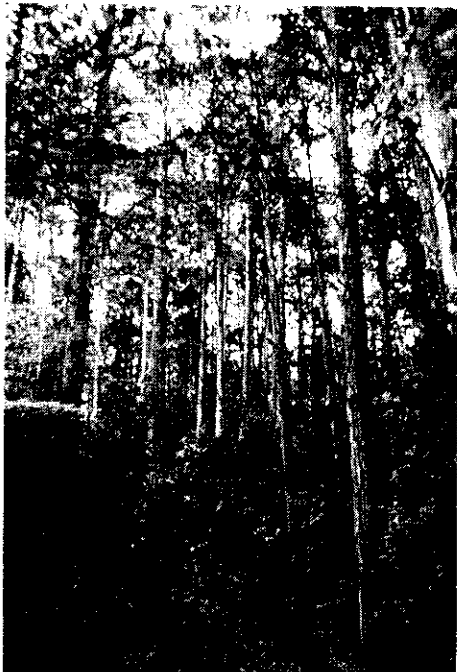


写真-3 修景除伐前



写真-4 修景除伐後

(2) 北八ヶ岳自然休養林における活動 (臼田営林署管内)

日 時 平成8年7月27日～28日  
参加人数 28人 (男性22人・女性6人)  
活動内容 駐車場から白駒の池までの遊歩道の立ち入り禁止ロープの張り直し及び杭丸太の補修。  
(約500m)  
白駒の池からニューウまでの登山道の敷き丸太の補修整備。  
(約1.5km)



写真-5 作業風景

(3) 木曾御岳自然休養林における活動 (王滝営林署管内)

日 時 平成8年8月24日～25日  
参加人数 9人 (男性8人・女性1人)  
活動内容 御岳山登山コースのうち王滝側の田の原山荘登り口から7合目までの登山道周辺に「高山植物を大切にしましょう」「ゴミは持ち帰りましょう」等の看板を作成し、設置した。



写真-6 作業風景

(4) 戸隠・大峰自然休養林における活動 (長野営林署管内)

日 時 平成8年9月21日～22日  
参加人数 26人 (男性21人・女性5人)  
活動内容 1日目  
戸隠森林植物園内の遊歩道整備及び園内の清掃。  
2日目  
平成7年度植樹祭に芝ザクラで描いた「98ナガノ」「スノーレツ」の絵模様内の雑草の除去。



写真-7 作業風景

### 3 森林ボランティア参加者からのアンケート調査結果

森林ボランティアの受入れ実施後、参加者全員を対象にアンケート調査を実施した。

#### (1) アンケート調査項目

アンケートは以下の5項目について記入形式で行った。

- ・ 今回参加された動機について。
- ・ このプログラムに対してあなたは何を期待しますか？
- ・ 経費（登録料・宿泊・交通費）についてどう思われますか？
- ・ 今後の改善策として提案等がありましたらお聞かせ下さい。
- ・ 今回参加しての感想。

#### (2) 参加者の年齢構成

参加者数	全体	112名
	男性	80名
	女性	32名

10代～60代までの幅広い参加があり、特に男性の41才～60才までの多い。

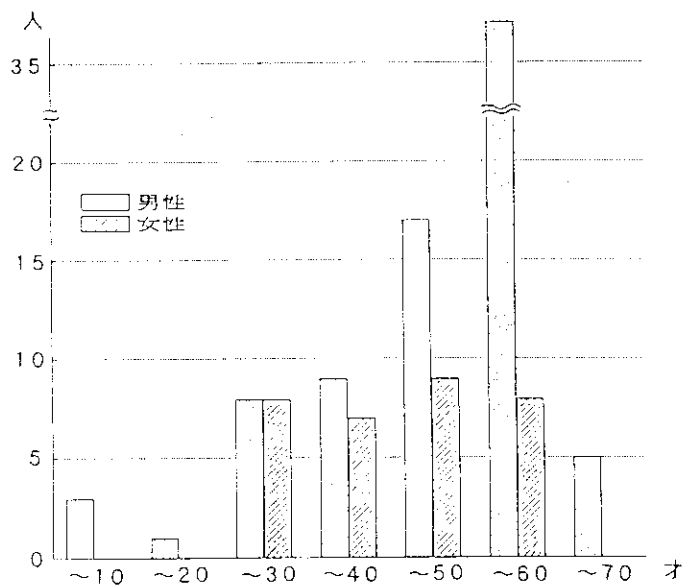


図-2 参加者の年齢構成

#### (3) アンケート調査結果

##### ア 今回参加された動機について

「積極的動機」のなかには

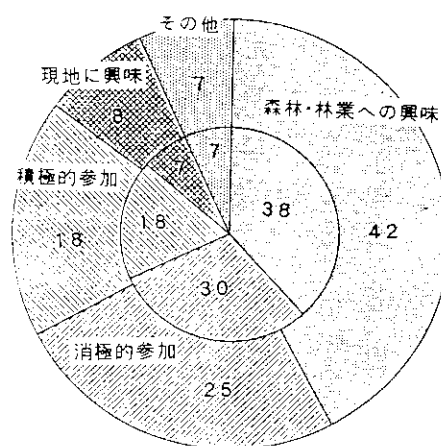
- ・ ボランティアを体験したい
- ・ 休日を利用した短期の緑化活動に参加できた

などの意見があった。

「消極的動機」のなかには

- ・ 実行委員会だから
- ・ 家族知人等の誘い

などの意見が含まれる。



外円 …… 全体  
内円 …… 赤沢

図-3 参加動機

イ このプログラムに対してあなたは何を期待しますか？

「森林・林業を体験したい」  
「森林保護・森林を守るのに役に立ちたい」が意見の大半を占め、参加者の森林・林業への関心の高さを示している。

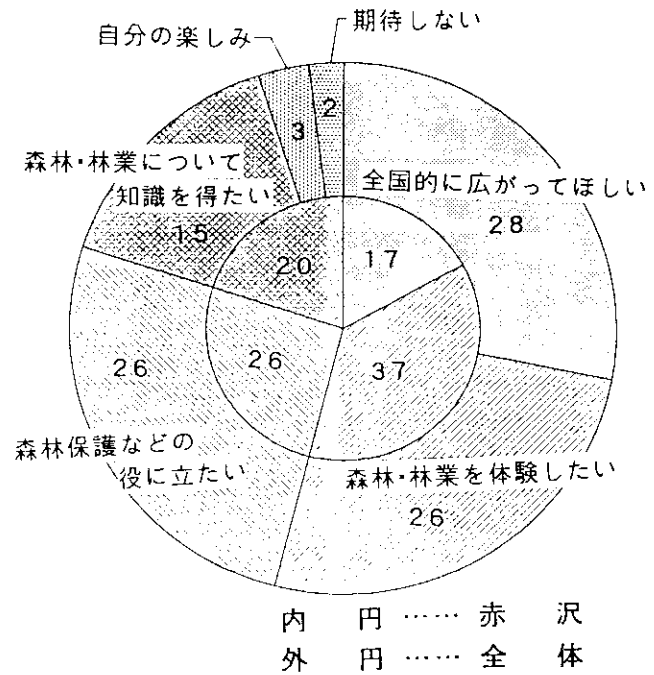


図-4 活動に何を期待するか

ウ 経費（登録料・宿泊・交通費）についてどう思われますか？

「高い」とする回答のなかには、  
・ 交通費が高い  
とする回答が大半を占め、赤沢においても現地までの交通費が自己負担のため、県外からの参加者には大きな負担となっている。

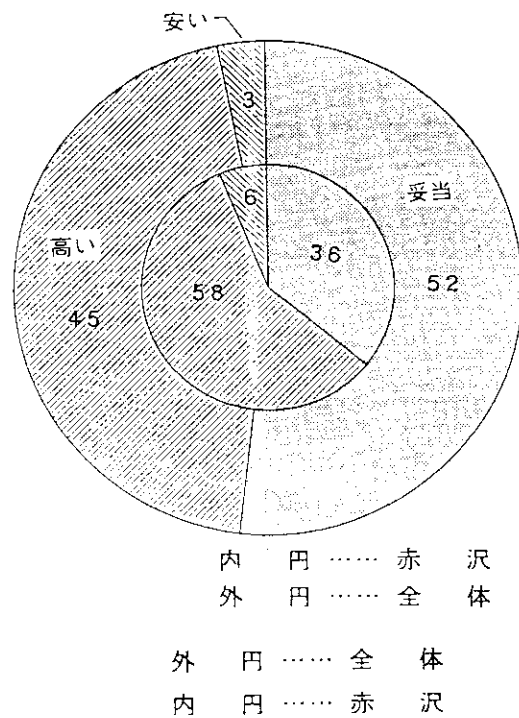


図-5 経費について

エ 今後の改善策として提案等ありましたらお聞かせ下さい。

「作業」に関する意見には、

- 作業時間を長くしてほしい
- 作業用具の充実
- 作業時間に余裕がない

などが多い。

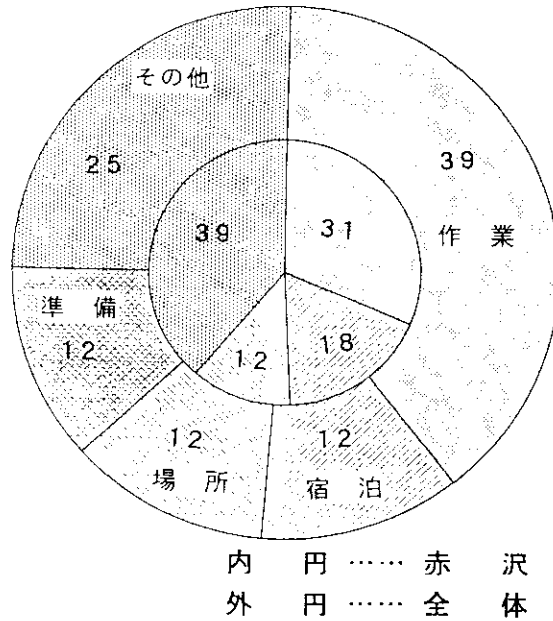


図-6 改善策について

オ 今回参加しての感想。

「好意的意見」

- 楽しかった
- また参加したい

が回答の大半を占めるが、

「要望的意見」として、

- 作業マニュアルを示してほしい
- 活動時間を長くしてほしい

などの意見が出されている。

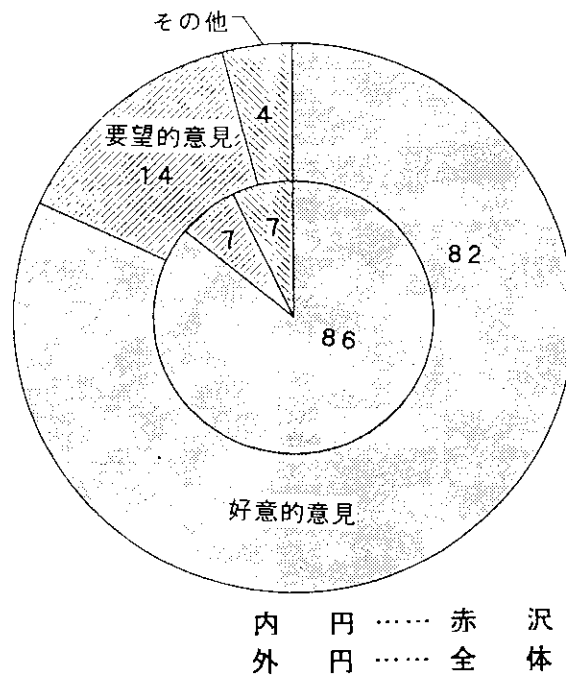


図-7 参加しての感想

#### 4 今後の問題点と取組

アンケート集計結果から、今回の受入れに当っては、ある程度森林ボランティアの趣旨に添った受入れができたと考えられるが、今後の受入れに当っては、改善を必要とする課題も幾つか出されている。これらの課題を整理し解消に向け、具体的な対応策について検討を行った結果、以下の通りに整理する事ができた。

##### (1) 参加者の体力・技術等のレベルの違い

###### 対応策

- ・ 作業内容の多様化
- ・ マニュアルの作成
- ・ 参加者のレベル分け

作業内容を多様化し、作業内容の分かりやすいマニュアルを作成する。また、募集する段階で、初心者か経験者かを聞いた上で班分けを行うなど、きめ細かな対応が必要である。

##### (2) 作業時間の延長

###### 対応策

- ・ 2泊3日の工程の実施

1泊2日の工程では「作業時間に余裕がない」等の意見が出されているため、2泊3日の工程の実施などを検討していきたい。

##### (3) 指導者の要請

###### 対応策

- ・ 現地駐在員の制度化

現地駐在員の制度化を進める中で国有林OBの活用も考えられ、今年度当署では、「財団法人 林野弘済会長野支部」の協力を得て、森林ガイド集団「山人協会」が設立され、従来職員が行っていた、赤沢自然休養林における森林インストラクター業務の一部を委託し、今後も従来業務はもとより、森林ボランティアへの対応も要請していきたいと考えている。



写真-8 山人協会

## おわりに

今回の森林ボランティアの受入れを行ってみて、国民の森林に対する関心の高さを改めて実感させられた。また、修景除伐作業実施後の入園者からは「景観が良くなった」などの感想が寄せられ、参加者のアンケートの結果を見る中でも、有意義な受入れであったと考えられる。

今後の森林ボランティアの受入れに当っては、今回の問題点を解消する事はもとより、常に問題意識を持つなかで、国有林が質の高い森林ボランティアの活動の場となるよう努力していき、このことが国有林及び森林・林業のPR、理解と協力を資するものと考えているので、関係者のみならず広くご指導をお願い申し上げたい。